

Photo:Takumi Ota

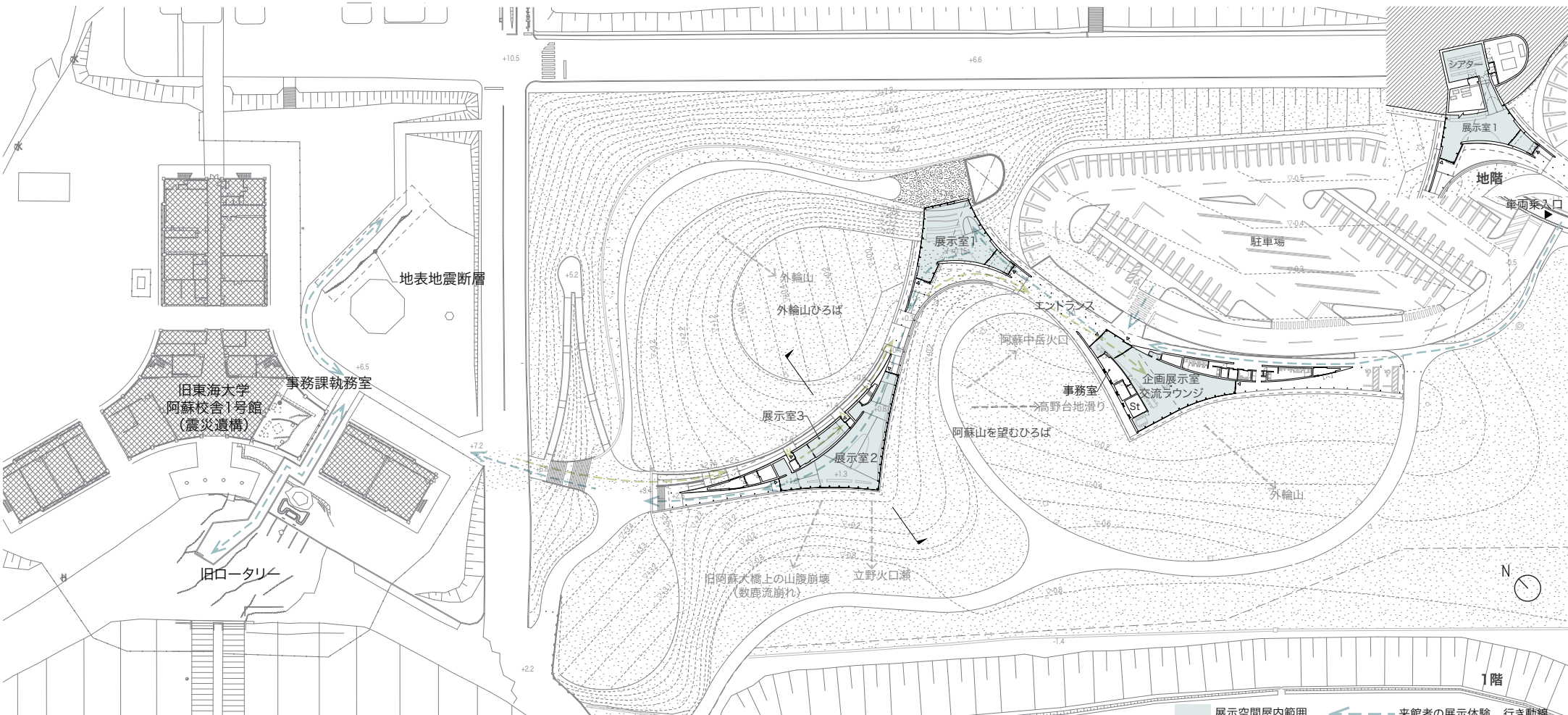
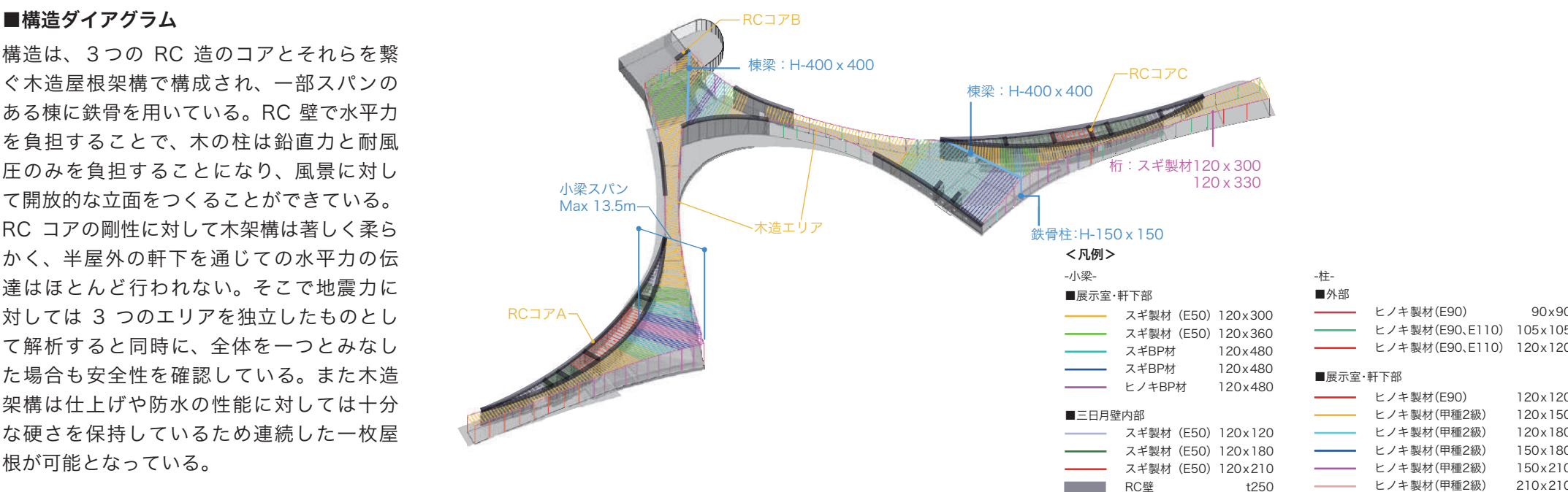
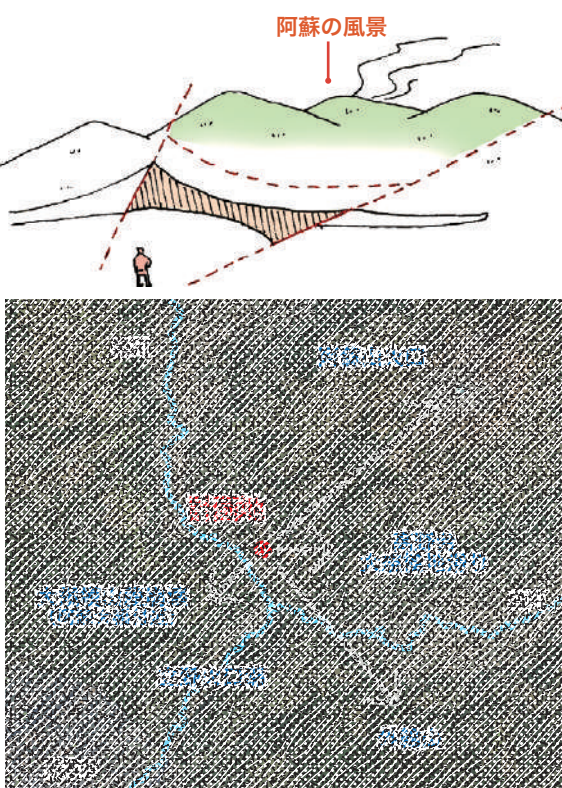
<概要>
所在地：熊本県阿蘇郡南阿蘇村
施主：熊本県
施工：橋本・豊建設工事共同企業体（建築）
協成設備工業（機械）、昭電社（電気）
主要用途：博物館
構造種別：木造＋鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
敷地面積：27027.99㎡
建築面積：1569.11㎡
延床面積：1210.29㎡
規模：地上1階地下1階
竣工：令和5年3月31日

自然の営みと共に生きる震災ミュージアム

熊本地震震災ミュージアム KIOKU は、熊本地震の記憶を後世へ繋げ、自然の恵みと驚異を伝えて行くミュージアムである。

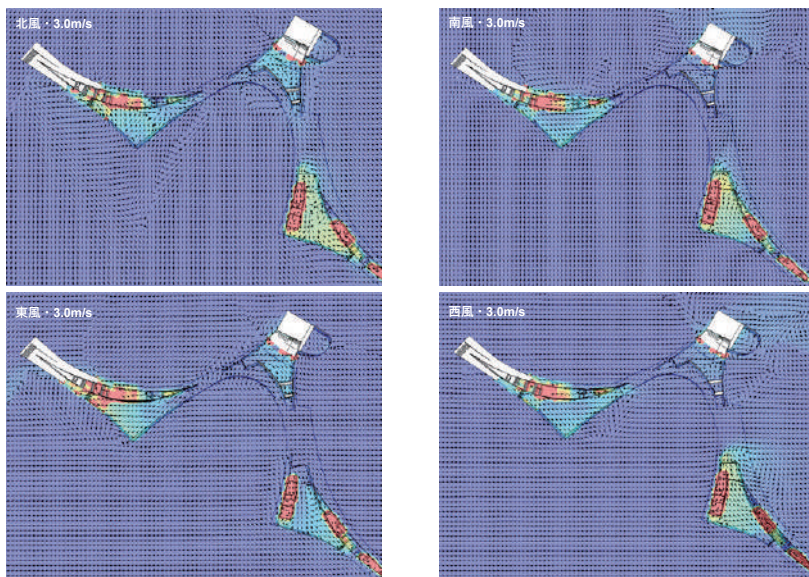
阿蘇の雄大な自然の風景に呼応するように、流れるような平屋の屋根を敷地につけ、屋根のカーブによって周囲の風景を切り取るよう計画することで、阿蘇の山や空に自然と目が向かうような佇まいを目指した。

敷地を横切るように架けられた屋根は、展示空間であると同時に、隣接する旧東海大学阿蘇校舎一号館へと訪れた人々を導く動線でもある。屋根の半分は軒下とし、室内は熊本地震の展示に触れる場、軒下は周囲の風景を眺めながら自ら考えることを促す場となっている。展示空間を室内に閉じないことで、少し離れた旧一号館を訪れる経験や、帰り道に近隣にある別の震災遺構を訪れる経験も、ひとつながりに感じられるようにした。

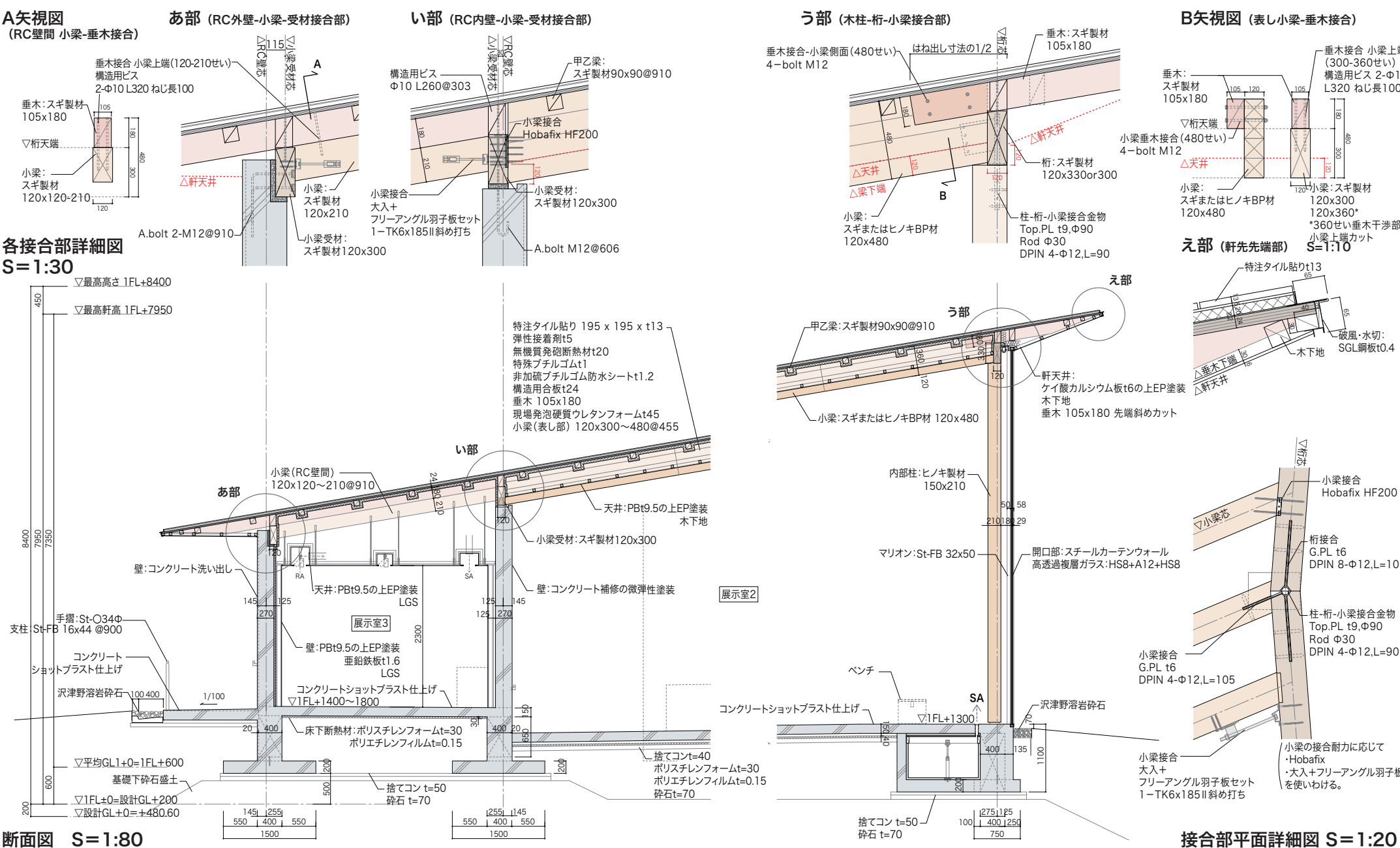


平面図 S=1:1200 展示室内や通路は緩やかなスロープとなっており、旧一号館へはバリアフリーでアクセス可能である。

■自然換気解析
阿蘇カルデラの地形から、敷地には全方位から風が吹くため、窓と出入口を開放した際の自然換気の解析を行い、中間期においていずれの方位の風でも良好な室内環境となるように計画した。



■WS
設計・施工の各段階においては、熊本県内の建築学生とともにワークショップを行い、地震によって被害を受けた市町村の方々のお話を伺いつつ、町の色を採取して建築の色に反映したり、地域の小学生たちと一緒に益城町でさまざまな色の石を拾い、研ぎ出すことで館名サインを製作した。



■素材 / リサーチ



3Photos:Takumi Ota

展示室 2



外輪山シアター



エントランス 軒下